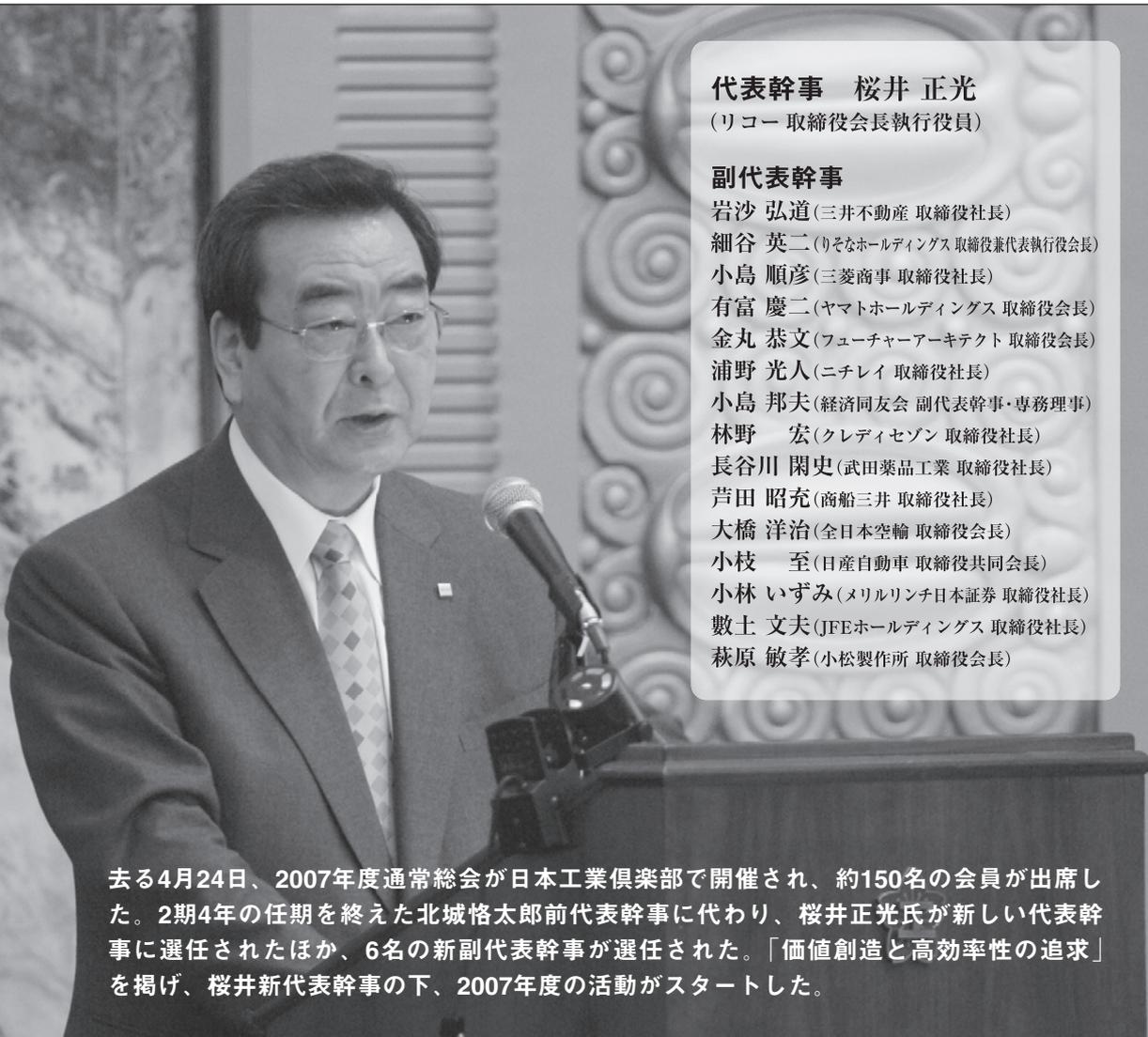


# 2007年度 通常総会 桜井代表幹事 新体制がスタート



**代表幹事 桜井 正光**  
(リコー 取締役会長執行役員)

**副代表幹事**

岩沙 弘道(三井不動産 取締役社長)  
細谷 英二(りそなホールディングス 取締役兼代表執行役会長)  
小島 順彦(三菱商事 取締役社長)  
有富 慶二(ヤマトホールディングス 取締役会長)  
金丸 恭文(フューチャーアーキテクト 取締役会長)  
浦野 光人(ニチレイ 取締役社長)  
小島 邦夫(経済同友会 副代表幹事・専務理事)  
林野 宏(クレディセゾン 取締役社長)  
長谷川 閑史(武田薬品工業 取締役社長)  
芦田 昭充(商船三井 取締役社長)  
大橋 洋治(全日本空輸 取締役会長)  
小枝 至(日産自動車 取締役共同会長)  
小林 いずみ(メリルリンチ日本証券 取締役社長)  
數土 文夫(JFEホールディングス 取締役社長)  
萩原 敏孝(小松製作所 取締役会長)

去る4月24日、2007年度通常総会が日本工業倶楽部で開催され、約150名の会員が出席した。2期4年の任期を終えた北城恪太郎前代表幹事に代わり、桜井正光氏が新しい代表幹事に選任されたほか、6名の新副代表幹事が選任された。「価値創造と高効率性の追求」を掲げ、桜井新代表幹事の下、2007年度の活動がスタートした。

通常総会では、まず、①小島邦夫副代表幹事・専務理事が「2006年度事業報告」を、②伊庭保2006年度財務委員会委員長(ソニーフィナンシャルホールディングス相談役)が「2006年度収支決算」の報告を、③福川伸次会計幹事(機械産業記念事業財団会長)が「同監査報告」を行い、それぞれ了承された。

続いて、④小林陽太郎2006年度役員選考委員会委員長(元代表幹事/富士ゼロックス相談役最高顧問)が「2007年度役員選任」の提案を行い、承認を受けた。これにより、桜井正光代表幹事と15名の副代表幹事による新体制が正式に発足した。なお、小島順彦氏は3期目、浦野光人、小島邦夫、林野宏の3氏は2期目の再任となる。新任の副代表幹事は、芦田昭充、大橋洋治、小枝至、小林いずみ、數土文夫、萩原敏孝

の6氏。また、幹事270名(うち新任61名、再任85名)と会計幹事7名(うち新任2名、再任1名)も決定した。さらに、前代表幹事の北城恪太郎氏と、1995年度から4期8年にわたり副代表幹事を務めた茂木友三郎氏(キッコーマン取締役会長・CEO)の2名が終身幹事に新たに選任された。

その後、⑤小林陽太郎委員長より「役員選任規程の改正」が、⑥小島邦夫副代表幹事・専務理事より「2007年度の事業計画」が、⑦伊庭保委員長より「経理規程の改正」及び「2007年度収支予算」が提案され、すべて承認を受けた。最後に、北城恪太郎前代表幹事の「退任挨拶」(7ページ参照)と、桜井正光新代表幹事の「就任挨拶」(2~4ページ参照)があり、経営改革と構造改革への決意を確認して総会を終えた。

# 日本の豊かさ、国際的地位をより確かなものに

「2006年度事業報告」と「2007年度事業計画」は、小島邦夫専務理事が説明を行った。以下、その概要を紹介する。なお、今年度の「委員会委員長等」は、25～26ページに掲載した。

イノベーションの担い手として、36の提言・意見書を発表

北城代表幹事の締めくくりとなった2006年度は、31の政策委員会を設置し、36の提言・意見書を発表した。小泉首相の退陣と新政権の発足に向けて、「構造改革の加速と継承、増税なきプライマリーバランスの黒字化」を主張した昨夏の『軽井沢アピール』に沿った政策提言をはじめ、多岐の分野で中身の濃い提言・意見書を示すことができた。

また、海外ミッションの派遣、国際会議への参加も行った。加えて省庁・政府機関との懇談会の実施、全国経済同友会地方行財政改革推進会議の第3期の始動等もあり、1年間の会合数はのべ800回、参加人数はのべ1万6000名に上った。

さらに、経済同友会創立60周年記念事業の一環として「世界経済フォーラム東アジア会議」をW E Fとの共催で6月に開催。国内外から約700名が参加し、高い評価を得ることができた。

32の政策委員会を設置し  
提言の発信力強化を目指す

2007年度は、「21世紀の国際社会において、日本の豊かさと安



全、国際的な地位を確かなものにするために不可欠なイノベーションを促進し、新たな成長基盤の確立と、自由で公正な市場経済の進化に取り組む」ことを目的に、3つの基本方針のもと、活動を展開していく。そして、①創造性と効率性、先駆性ある企業経営の実践、②構造改革の継承と加速、③経済活性化と成長基盤の強化、④日本の社会構造のイノベーション、⑤国際交



## 2006年度の主な提言・意見書（カッコ内は委員長名。敬称・肩書略）

『独占禁止法における違反抑止制度の在り方に関する論点整理』	企業・経済法制委員会	(岩沙 弘道)
『活力ある高齢社会―生涯にわたるワークライフバランスの実現』	欧州委員会	(小枝 至)
『「労働契約法制」及び「労働時間法制」に関する意見書』	多様な人材の活用委員会	(加賀見俊夫)
『日本のイノベーション戦略―トップがコミットし、自ら実行すべし―』	日本のイノベーション戦略委員会	(小島 順彦)
『「企業結合審査に関する独占禁止法の運用指針」等の見直しに関する意見』	企業・経済法制委員会	(岩沙 弘道)
『成長を未来につなぐ―生産性向上による豊かな国民生活の実現』	経済政策委員会	(高橋 温)
『教育の視点から大学を変える―日本のイノベーションを担う人材育成に向けて』	教育問題委員会	(浦野 光人)
『骨太の方針2007にむけて―日本の競争力復活にむけて自己革新すべし―』	諮問委員会	(有富 慶二)
『市場機能及び民間活力重視の姿勢の貫徹』	市場主義・民間主導社会のあるべき姿を考える委員会	(氏家 純一)
『これからの経済社会を展望した格差議論を』	格差を考える委員会	(斎藤 博明)
『活力ある経済社会を支える社会保障制度改革』	社会保障改革委員会	(門脇 英晴)
『真に地球規模で実効性ある枠組みを』	地球環境・エネルギー委員会	(數土 文夫)
『世界の投資家から信頼される資本市場の確立』	金融・資本市場委員会	(林野 宏)
『中央政府の再設計』	行政改革委員会	(金丸 恭文)
『人材が集う企業へ―多様な働き方を尊重し、自ら考え選択できるしくみを―』	多様な人材の活用委員会	(加賀見俊夫)
『「日本の未来は本当に大丈夫か」―改めて問う少子化対策―』	人口一億人時代の日本委員会	(森田富治郎)
『ベンチャー企業による市場の活性化と個人再生』	新事業創造委員会	(藤木 保彦)
『今後の国の構造改革の進め方について』	構造改革進捗レビュー委員会	(細谷 英二)
『緊急意見書「新政策金融公庫は縦割り組織を廃し経営の効率化を図れ」』	構造改革進捗レビュー委員会	(細谷 英二)

流・研究ネットワークの展開、という5つの枠組みに32の政策委員会を設置する。

政策委員会の今年度の特色としては、以下の点を挙げる事ができる。①企業経営委員会では『企業白書』のとりまとめを考えている。②新たに規制改革委員会を設置し、内閣府規制改革会議の活動状況把握と側面支援を行う。③サービス産業の生産性向上、消費活性化、地域経済活性化、中小企業活性化、経済外交、科学技術・イノベーション立国の各委員会を新設する。なかでも、地域や中小企業はこれまで取り上げる機会の少なかった課題だが、弱点のカバーではなく、強みを活かし、どのように競争力を向上させるかという視点での検討を行う。④これまでの蓄積を活かし、学校と企業・経営者の交流活動推進、

NPO・社会起業推進、少子化対策推進という3つの提言実践推進委員会を設け、企業経営者としての実践的社会活動を進める。⑤国際問題委員会のもと、中東・湾岸地域へのミッション派遣を検討している。

加えて、正副代表幹事委員会として、政策的議論のネットワークとなる委員会を設置する。経済情勢・政策委員会は、その時々々の経済情勢や政策課題を議論する。政治委員会は、提言のフォローアップと、政治家・官僚との政策対話のネットワーク

### 活動の3つの基本方針

#### ■企業経営者としての責務

- ・イノベーションによる競争力強化
- ・社会の信頼と要請に応える企業社会
- ・健全で公正な競争と選択の場としての市場

#### ■21世紀の国際社会における活力ある成熟社会の実現

- ・構造改革の継続と加速
- ・新たな成長を担う市場の創出

#### ■日本のあるべき姿と選ぶべき進路

- ・経済人の視点から、国民的議論を喚起

### 提言の発信・実現に向けた取り組み

#### ■「企業経営者自らの実践」の追求

- ・提言実践推進委員会の拡充

#### ■ネットワーク強化、共感の醸成

- ・「同友会政策フォーラム」の開始

構築の機能を担う。

さらに、提言の発信・実現に向けた取り組みを一段と強化していく。提言実践推進委員会を拡充するとともに、新たに「同友会政策フォーラム」をスタートさせ、政策形成に関わる人々を幅広く招き、議論の場として活用していく。



退任挨拶

### 新事業創造、イノベーションを指針に 小泉構造改革の推進に少なからず貢献

北城 恪太郎 前代表幹事

2003年4月の代表幹事就任以来、我々は小泉構造改革路線を一貫して支持してきた。この間、官から民への流れでは、郵政民営化をはじめとする様々な改革、課題があった。また、規制改革の分野では独占禁止法改正などの問題があった。これらに対し、経営者個人の立場から意見を表明することで、政策決定の際に何らか

の貢献ができたのではない。

小泉政権から安倍政権へと移行し、現在では、オープンとイノベーションによる経済成長が目標となっている。私の代表幹事就任時にも、「新事業創造」と「イノベーションによる経済の発展」を指針に掲げて努力を重ねてきた。これまで経済同友会は、提言はするが実現のための活動が不十分と

いう声もあったが、皆さんの協力を支えられ、新事業に挑戦する人々の支援、あるいは、学校と経営者の交流活動などを通し、提言の実践活動にも注力してきた。

また、提言策定にあってはいろいろな反対意見もあったと思うが、一人ひとりが志を持って発言することで、社会に議論の幅を広げる役に立ったと思っている。



正副代表幹事記者会見

## 市場主義経済社会の強化と「新・日本流経営」

通常総会に先立ち、新任・退任含め正副代表幹事20名が、記者会見に臨んだ。北城前代表幹事の退任挨拶に続いて、桜井新代表幹事が抱負を語った。また、退任する副代表幹事5氏と新任の副代表幹事6氏が挨拶を行った。

会見では、最初に、北城前代表幹事が退任の挨拶を行い、「今後、イノベーションを核に日本経済が発展していく中で、経営者の見識に基づいた我々の提言が日本社会の中で活かされていけば、私としてもたいへん嬉しく思う」などと語った。

続いて、桜井新代表幹事が挨拶し、「経営者の政策集団として、60年の歴史がある経済同友会の代表幹事に推挙されたことは身に余る光栄であり、その責務の大きさに身の引き締まる思いだ」と述べた。その上で、今後の活動に関して強調しておくこととして、次の2点について語った。ひとつは、「今、原点に立ち返っ

て『市場主義経済社会』を見つめ直し、その再構築に努めていきたい」という点である。もうひとつは、景気回復の下で、構造改革の加速の勢いが強くないと指摘した。もうひとつは「グローバルな競争力強化の視点から日本・海外の『経営の良さ』を融合させた『新・日本流経営』を追求したい」という点だ。その際、「弱点の強化から出発するよりむしろ、我々の強さ・良さをしっかりと見極め、そこからスタートさせたい。と同時に、企業の社会的責任への積極的な取り組みがベースになければならない」ことも強調した。



止など環境問題は、すべて待たなし。経済同友会としても積極的に議論していきたい」とした。三角合併解禁については、「問題は敵対的買収の入口になるかどうかだが、常にそうなるとは思わない。むしろ、オープンに外資を呼び込み、日本経済を活性化させることも大切」と述べた。



記者の質問に  
答えて

現場力、チームワーク、技術力が強み。環境経営にも積極的な取り組みを

会見後の質疑応答で桜井新代表幹事は、日本企業の強みについて、「現場力、チームワーク、技術力、そして、品質に厳しい市場の目である。しかし最近、日本企業の現場力が弱くなり始めているのが不安だ」と発言。

環境経営への取り組みについては、「ポスト京都議定書の枠組みの問題、省エネ、省資源、汚染防

止など環境問題は、すべて待たなし。経済同友会としても積極的に議論していきたい」とした。

三角合併解禁については、「問題は敵対的買収の入口になるかどうかだが、常にそうなるとは思わない。むしろ、オープンに外資を呼び込み、日本経済を活性化させることも大切」と述べた。



新副代表幹事の挨拶

芦田 昭充氏 商船三井 取締役社長

先日、ロシア訪問を終えたばかりだが、諸外国と比較して、日本経済はこぢんまりと小さくまとまっている印象だ。「日本流」というキーワードが示すとおり、ゴルフに例えれば少しラフに入ってもいいから、自分流の打ち方で飛距離を出し、ダイナミックさを取り戻す必要があるのではないかな。

小林 いずみ氏 メリルリンチ日本証券 取締役社長

この数年間は教育問題を中心に活動しているが、日本の社会、あるいは、国そのものが今後どうなっていくのか、皆で意識を共有していくことが必要なのではないかな。また、日本流の経営をグローバルな社会で理解してもらうために、その正しい発信に取り組んでいきたい。

大橋 洋治氏 全日本空輸 取締役会長

経済同友会は業種を超え、自由闊達な意見が言い合える風通しの良い団体と感じている。私自身、地方出身ということもあって、東京一極集中化の問題に対し、地方行財政とのバランスという視点から取り組みたい。また、なかなか進まない官から民への問題も積極的に勉強していきたい。

數土 文夫氏 JFEホールディングス 取締役社長

経済同友会は、経営者個人が活動の単位であることと、経営を基盤とした日本の将来に対する見識と志が、活動の原点となってくる。日本の国運を左右する多種多様な課題に対し、自由闊達に、日本流の発想から意見交換を行い、将来の日本に対して少しでも良いものを生み出したい。

小枝 至氏 日産自動車 取締役共同会長

この2年間は活力ある高齢社会というテーマに取り組み、「生涯にわたるワークとライフのバランスが大切だ」と提言した。今、東京とそれ以外の地域との経済格差が広がっているが、全国の経済同友会の組織との連携を強化し、日本の社会に役立つ提言を行っていきたい。

萩原 敏孝氏 小松製作所 取締役会長

日本は目に見える形でアジアのために活動していないという声をよく聞く。経済同友会でも東アジア共同体に向けた様々な提言を行っているが、アクションを伴う提言にしていきたい。また、製造業の立場から、日本のものづくりの維持・強化策について、皆さんと議論を重ねていきたい。



## 退任副代表幹事の挨拶



### 森田 富治郎氏 第一生命保険 取締役会長

不完全燃焼の思いはあるが、それでもこの2年間、少子高齢化・人口減少の問題に取り組んだ。その作業と議論を通じて、日本は極めて困難な将来を迎えようとしていること、日本の意思決定システムの遅さを改めて痛感させられた。

### 下村 満子氏 健康事業総合財団 [東京顕微鏡院] 理事長

まるで大学院に社会人入学したかのようで、いろいろ学ばせていただいた。非常に個性豊かな経営者が集い、議論も自由闊達で、タブーがないというのが実感だ。小泉政権の4年間をともに歩み、議論し、提言できたことに感謝したい。

### 齋藤 博明氏 TAC 取締役社長

北城前代表幹事の「新事業創造立国」という考え方は、たいへん画期的なものだった。ベンチャー育成という視点は、大企業の側からはなかなか出てこない。こうした面からの活動で、「行動する同友会」に貢献できたと思う。

### 加賀見 俊夫氏 オリエンタルランド 取締役会長兼CEO

異業種の方々と活発に議論し、4年間で3つの委員会で提言を発表できた。私の関わったものは、比較的長期の視点で対応する内容が多かったが、これからどの部分が具体化されていくのか非常に楽しみにしている。

### 氏家 純一氏 野村ホールディングス 取締役会長

経済同友会が長年掲げてきた「市場主義」と、私の考え方は非常に親和性が高かった。マスコミの方々には、我々の提言をもっと記事にしてほしかったが、つまりは、書きたいと思わせるものを作っていく必要があるということなのだろう。

【9ページの写真】 新任の副代表幹事6名  
(左から) 芦田昭充氏、大橋洋治、小枝至氏、小林いずみ氏、數土文夫氏、萩原敏孝氏

【10ページの写真】 退任する副代表幹事5名  
(左から) 森田富治郎氏、下村満子氏、齋藤博明氏、加賀見俊夫氏、氏家純一氏

## 懇親会

総会終了後、会員懇親会が開催された。会場には福井俊彦日本銀行総裁、王毅駐日中国大使はじめ、政界・官界、各国大使館などから大勢の来賓が出席。歴代の代表幹事も揃い、北城前代表幹事を労うとともに、桜井同友会の新しい船出を祝った。

